

「伝え合い、学び合う児童の育成」

～言語活動の充実を図る指導を通して～

I 研究の内容

- 1 研究仮説 授業において、言語活動を取り入れる指導方法を工夫していくことで思考力、判断力、表現力がはぐくまれ、進んで学び合う子どもが育つだろう。
- 2 研究の内容と方法
 - (1) 授業研究
研究授業（低学年ブロック、高学年ブロック各1本）一人一実践授業
 - (2) テーマに関わる理論学習
 - (3) 特別支援教育の学習会
 - (4) 今日的教育課題関連の学習会
- 3 研究実践
 - (1) 学習会
 - ア 「本校の校内研のテーマに関わる学習会」（6月）
講師 峡東教育事務所 小林俊彦指導主事
 - イ 言語活動の充実を図る指導についての学習会（5月、6月）
 - (2) 特別支援教育の学習会（7月）
「通常学級にいる軽度発達障害、問題を抱える児童の支援の方法」
「全ての子どもに必要な教育的支援とは」
講師 新しい学校づくり推進室 岡輝彦指導主事
 - (3) 研究授業
 - ア 低学年ブロックの研究授業（11月）
1 学年国語「くじらぐも」 中込美恵子教諭
指導助言 峡東教育事務所 小林俊彦指導主事
 - イ 高学年ブロックの研究授業（10月）
4 学年国語「ごんぎつね」 中根絵里教諭
指導助言 峡東教育事務所 小林俊彦指導主事
 - (4) 授業実践
 - ア 2 学年国語「みんなできめよう」 丸田みどり教諭
 - イ 3 学年道徳「やさしい心」 堀井ますみ教諭
 - ウ 5 学年算数「分数のかけ算とわり算」 山宮武徳教諭
 - エ 6 学年国語「討論会をしよう」 山縣重人教諭

オ あおば学級「これはなんでしょう」 相川和彦教諭

カ すみれ学級「かるたについて知ろう」 武井麻子教諭

II 成果と課題

1 成果

- ・本校の児童の実態に即した研究主題であった。また、学習指導要領で求められている言語活動に視点が当てられたものであり、これからの学びには必要なものなのでよかった。
- ・理論学習をし、全員で共通理解をして研究に取り組むという姿勢がよかった。また、学習指導要領で求められる言語活動について理解を深めることができた。
- ・日常の授業での取り組みで、自分の考えを持ち、友だちの考えを聞いて、自分の考えをさらに深めることを意識してきている。
- ・話し合い活動を仕組むことで、考える力がついてきており、自分の考えを自分なりにまとめて書く力も合わせてついてきている。また、話し合いをすることによって、学び合う姿勢が向上し、思考力や判断力が向上してきている。
- ・グループの中で意見を伝えたり、話し合ったりすることに抵抗を感じなくなり、むしろ楽しんでいる様子もうかがえる。
- ・話し合い活動を意図的に取り入れていくことで、自分の考えをはずかしがらずに出せるようになってきている。また、友だちの考えも、受け入れられることができる児童が増えてきている。
- ・教科書が変わった今年、国語の言語活動に目を向けた実践が研究できたのはとても勉強になった。
- ・通常学級における特別支援教育の留意点や、ユニバーサルデザインの環境づくりについての学習を深めることができた。

2 課題

- ・友だちの考えを聞くときに、大切なことをメモしていく力をつけていきたい。
- ・聞く、聞いて理解するといった「聞く力」を伸ばしていきたい。
- ・個人のもっている力が基本となるので、基礎・基本となる学力を保障することが大前提である。
- ・質の高い学習を行うためには集団づくりが大切なので、互いに学び合い、高め合う学級集団をまずつくることが課題である。
- ・目指す授業（子ども）像を、今年一年の実践を踏まえて、今の実態に合うものに練り直していきたい。

III 成果物

- 1 研究授業、授業実践の指導案 8 点
- 2 目指す授業（子ども）像

（研究主任 山宮武徳）